

沖縄の原風景に関する造景史的考察

琉球大学大学院 ○学生会員 大出水 健一郎
琉球大学工学部 正会員 上 間 清

1. まえがき

近年の地域個性を生かした土木施設造りを求める思潮の高まりを背景に、景観への計画的対応が盛行となって久しい。また、地域の個性を生かした景観のありかたに関する研究や、事例も顕著となってきている。このような背景から、地域の原風景への関心も高揚してきたが、原風景の概念、要素、造景史的な考察およびその計画設計への活用等については、これまで十分な調査・研究は少なく、これらに関する調査・研究の必要性が高まってきている。

本報告は、沖縄地域における「原風景」に関して行った種々の意識調査や詩歌類調査に基づいて抽出した原風景要素のうち、人文的要素に着目し、その出現過程を検証し、造景史の観点から考察を行うことを目的としている。

2. 沖縄における原風景調査経緯

沖縄地域における原風景に関する研究については、これまで筆者らによる種々の研究がなされてきたが、その内容は、表-1に示す通りである。

表-1 沖縄原風景に関する調査経緯と内容

No.	調査項目	調査内容	調査年・調査者
1	沖縄の原風景に関する基礎的考察	景観計画上の意義、概念、種別、研究調査法	1995年3月
2	意識調査その1 計画・設計者対象	景観関心、原風景印象、原風景に対する意見等	1995年10月
3	意識調査その2 沖縄学園関係対象	定義、要素、景観関心、原風景指摘、重要性等	1996年6月
4	意識調査その3 芸術関係者対象	定義、要素、景観関心、原風景指摘、重要性等	1997年9月
5	詩歌調査 おもろさうし、琉歌	原風景要素抽出	1998年5月
6	原風景要素抽出	沖縄原風景要素抽出及びデータベース作成	1998年7月
7	沖縄造景史概説	造景史略年表作成及び造景史考察	1999年1月

上記の内容については、一部発表済みのものも含まれているが^{1)~4)}、それらの個別の概要を示せば次の通りである。表中の1は、原風景の景観計画上の意義、概念・種別、調査研究方法等について考察したものであり、2, 3, 4は、沖縄の原風景に関する種々の意識調査の成果についてまとめられたものである。意識調査の対象としては、まず実際に景観計画や設計に従事している技術者を対象として行ったもの、次にいわゆる沖縄学(歴史学、文学、民俗学等種々の分野)専門家を対象とし、さらに沖縄に在住する芸術関係者(絵画、陶芸、写真等の各分野)を対象として行っ

た。また、5の調査は、人々の原風景意識に賦与している、沖縄独特の形態、音律を持つ詩歌として「おもろさうし」と「琉歌」について調査を行い景観要素の出現と内容について考察したものである。

調査その6は、これらの意識調査の中で指摘された原風景要素と詩歌調査において抽出された要素を踏まえて併せて考察し、原風景要素の抽出を試みたものである。抽出した項目については、人工造景系、自然系、生活所作系、その他と大別し、さらに下位の項目別に52要素を抽出した。また、抽出された各要素について、それらの由来、社会的意義、分布、形式等についてデータベースの作成を試みた。

調査7は、本報告の内容に関係するものであるが、海外交流によって影響を受けた文化的事項と、沖縄における地域景観の変容を探るべく、人文的要因の出現に着目し、造景史的考察を行うものである。

3. 人文的景観変容に関する考察

(1) 地域景観の変容過程一般

地域景観の時間軸上における変容過程の一般的な概念は、所与、あるいは前代の景観に、種々の人為的要因(人文的要因)および自然的要因が短期的、あるいは長期的に、また単独で影響したり、同一要因内の要素が複合的に影響し合って、景観変容に作用することによって次代の景観へと変容していくものと考えられる。また、これらの影響の具体的な現れ方は、景観形成に関わる各時代のプランニング行為とその実現行動のあり方が大きく関わるものと考えられる。

これらの変容作用は、次代の景観が形成されると、時系列的なサイクルをもって、未来にわたって景観を変容させ続けていくものと考えられる。

図-1は以上の概念を簡潔にまとめたものである。

(2) 沖縄造景史考察

地域の造景史の考察にあたっては、歴史的にどのような要素が景観変容に関わりを持ったかについて具体的に調査することが必要となる。このため筆者らは、沖縄における人文的景観要素の出現に着目し、詳しく調査を行った。調査の内容は、沖縄の歴史編年、沖縄と海外との交流経緯とその影響の具体的な内容、また種々の分野における人文要素の経年的出現状況等である。

沖縄文化を考察するにあたっては、その特色ある海外交

